

水谷先生講演要旨

- ・ 水谷修です。額がかなり後退していて大分年がいらっしゃると思いますが、~~ま~~48歳です。
- ・ 私が夜の世界に入り夜回りを始めたのは、13年前横浜の夜間高校での勤務が始まってからです。この学校は横浜中華街の近くにあり、まわりには暴力団も多い非常に危険なところでした。夜間高校という特殊性で授業が終わるのが真夜中、それから学生は夜の街を徘徊したりして、ドラッグ、性犯罪、暴走族、その他の犯罪に巻きこまれやすいという危険性が大きいです。
- ・ たかしの話。暴走族。おばあさんの虎の子のお金を奪い、おばあさんをひきずって脳挫傷で死なせてしまった。病院でおじいさんが一人ポツンと廊下の長椅子に座っていた。たかしは廊下に額を打ち付けておじいさんに謝ったが、おじいさんは許してくれなかった。廊下は血だらけになっていた。たかしは強盗致死罪で服役したが出所して仕事についた。たかしは本当はとても心根がやさしく、人に親切な青年である。ある日突然私を包丁で刺して殺すと言ってきた。理由を尋ねると職場で盗難事件があって、前歴から自分が犯人扱いされたとのこと。犯罪者に対する世間の目は非常に厳しく再び悪の道に引き戻してしまう。この件は応決着し、たかしは今もおじいさんに給料の相当の部分を支払っている。
- ・ 貧しさを笑われ、いじめられ、小学生で暴走族に入ったシンナー中毒のマサフミの話。火葬場で彼の骨が殆ど残らず母親が熱い灰を手で握り締め号泣した話。シンナーがいかに人の体を蝕んでいくかということを実話で話した。マサフミが先生の活動のきっかけをつくった。
- ・ 2枚刃かみそりの少女の話。1枚刃の場合傷は一応くつつくが、2枚刃だと2つ目に傷が引っ張られ決して傷口が元には戻らないという話。この少女の2枚刃は水谷先生の指導でその後やらなくなった。
- ・ レイプされたのをきっかけに暴走族に入りエイズをうつされたエリの話。先生は病院には何度か通い最後を看取った。体重は半分になり目は落ち窪んでいた。講演で話すことは、「わたしのようにならないで」と代わって訴えてほしいというエリの遺言。
- ・ 子供をしかるだけではよくない。ほめることで子供はやる気が出るし、大人との距離も縮まる。
- ・ 会場の親に質問。今まで子供をしかったことと、ほめたこととどちらが多いか。圧倒的にしかったことが多かった。答えは拳手にて。
- ・ 高校生に質問。今まで親にほめられたこととしかられたこととどちらが多いかほめられたことが多い子が数人？
- ・ 相談のメールの件数は三重県について愛知県が全国でも2番目に多い。管理教育の影響か。子供は学校の先生にも親にも相談しにくいようだ。
- ・ 愛知県の豊田市・東三河にリストカットする子どもが一番多い。
- ・ 民放のテレビ番組に以前出たことがあった。誰がその番組に出るのか事前にはわからなかった。出てみて、ビートたけしということがわかった。笑いをとるなら何でもありというビートたけしの態度もそれを流すメディアも間違っている。以来民放の番組には出ないこととした。

- ・ 小学生、中学生がどんな本を読んでいるかを知る必要があり、片っ端から目を通したことがあった。その内容（性に関することが特に）のいいかげんさ、無責任さ、過剰表現に唖然とした。子供の性犯罪、性の乱れを大人が作っている。
- ・ 大人（男）やメディアが作った女性像を今の女子高校生は鵜のみにしている。その結果が女子高校生の服装であり、行動である。
- ・ 大人が何歳以下（線引きは中学生以下、高校生以下？）の少女と性交渉を持った場合の刑法上の罪名をいくつか列記。（中学生以下だとたとえ相手が合意していても、大人は刑務所行き）
- ・ 性交渉をする相手を自分の娘や自分の妹に置き換えて考えてほしい。
- ・ メディアが女性を物としてしか扱っていないことが許せない。
- ・ 強者から弱者、男から女・子どもを支配する構造を変えなければ、子どもは幸せになれない。真の男女平等な社会にしなければならない。
- ・ 質問。子供の部屋のベッドの下にエロ本があるのを発見したら親はどうするか。三択。
 1. 元に戻し見なかったことにする。
 2. ベッドの上にこれみよがしに放り上げておく。
 3. 家族会議
 1. と2. が圧倒的に多かった。先生の答えは3. 家族会議。
 男の側から興味本位で書かれたエロ本は何の役にも立たないことを家族で考えることが大切。
 お母さんが子どもを前に座らせ、お父さんが帰ってくるまでその本をゆっくりとページをめくって見てやると子どもによく効きます。
- ・ 学校で生徒が先生から虐待を受け、その生徒が私に助けを求めてきたケースがあった。このような場合相手に虐待中止を求めるのに、直接当人に掛け合ってもうまくいかない。私はトップと掛け合う。トップから当人を諭してもらい、必要に応じて処分もしてもらうのが一番効果がある。
- ・ 私はリンパ腫であとどれだけもつかかわからない。しかし体の続く限働けていきます。

